

[参考事項]

新技術名：クビアカスカシバのブドウ樹への食入時期（平成21～22年）

研究機関名 秋田県農林水産技術センター果樹試験場
特産果樹部
担 当 者 小松美千代

[要約]

性フェロモントラップによるクビアカスカシバ雄成虫の誘殺は6月上旬～8月中旬にみられ、幼虫のブドウ樹への食入は7月上旬～10月上旬にみられる。また、食入幼虫数は8月に多い。

[ねらい]

近年、クビアカスカシバによるブドウの枝幹被害が増加している。現在、本種に対する登録薬剤はなく、防除対策として幼虫の捕殺が実施されているが、発見の遅れから十分な防除効果を得ていない。

そこで、幼虫食入部位の早期発見や食入防止対策の確立に役立てるため、ブドウ樹への幼虫の食入時期を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1 性フェロモントラップによる雄成虫の誘殺は、平鹿町において6月中旬～8月上旬、金沢中野において2009年は6月上旬～8月上旬、2010年は6月中旬～8月中旬にみられた。また、誘殺盛期は2009年は6月下旬、2010年は7月中旬であった（図1）。
- 2 幼虫の食入は、平鹿町において2009年は7月中旬～9月上旬、2010年は7月中旬～8月下旬にみられ、金沢中野において2009年は7月中旬～9月下旬、2010年は7月上旬～10月上旬にみられた。また、食入幼虫数が最も多かった時期は、平鹿町において2009年は8月下旬、2010年は8月上旬であり、金沢中野において2009年は8月中旬、2010年は8月上旬であった（図2）。

[普及対象範囲]

県内ブドウ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

早期に幼虫食入部位を発見するため、粗皮剥ぎを実施するとともに、本調査結果から得られた幼虫の食入時期に定期的な観察を行い、幼虫を捕殺する。

[具体的なデータ等]

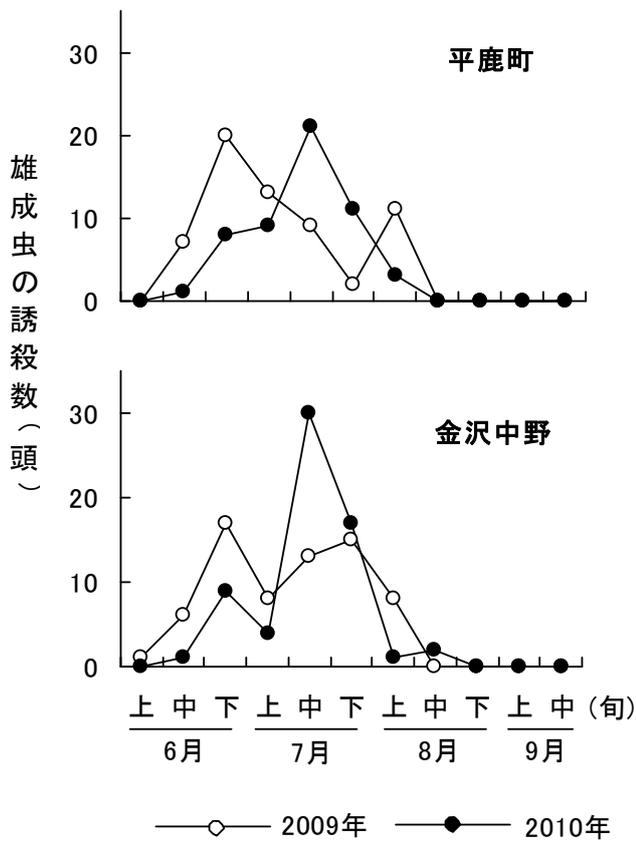


図1 性フェロモントラップによる雄成虫の誘殺消長

注) 誘殺数は、性フェロモントラップを各園地のブドウ棚に設置し調査。誘引源は信越化学工業株式会社製の合成性フェロモン、トラップは住化武田式粘着版を使用。

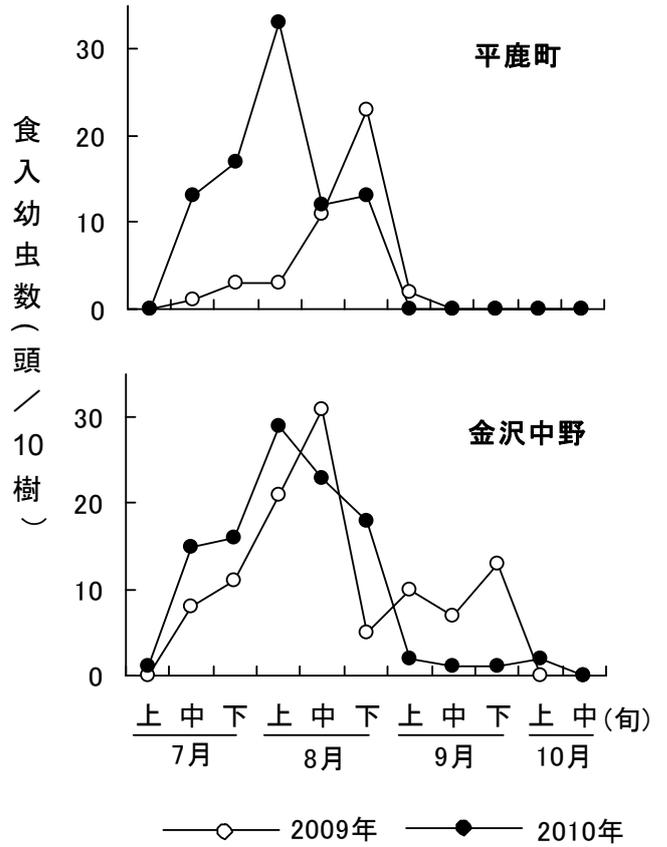


図2 枝幹における食入幼虫数の推移

注) 食入幼虫数は、約10日毎に調査樹10樹の虫糞排出部位を削って幼虫を捕獲し調査。虫糞と幼虫は調査日毎に除去。

[発表文献等]

北日本病害虫研究会報第62号 投稿中